

第28回

SDGsの三層構造とジェンダー平等

行方市SDGs推進アドバイザー・茨城大学教授 野田真里

1. 三層構造でSDGsをより身近に

SDGsはカラフルなロゴの17目標がよく知られていますが、本連載で説明している通り、それだけではありません。ご承知の方もいらっしゃると思いますが、今回はあらためてSDGsの三層構造についてご説明いたします。SDGsは「他人事」ではなく、「我が事」であるという点が、この三層構造を理解することでより身近に感じられ、取り組みやすくなります。

SDGsは世界全体が持続可能な開発の推進にむけて共に歩むべき道程を示し、かつ、その歩みを共通の尺度で測り、経験を共有しながら取り組むことが可能となっています。三層構造とは17の目標、169のターゲット、そして244（重複を除くと242）の指標を指します。以下、ジェンダーを事例に説明していきます（図表）。

2. 大きなビジョンを示す第1層（目標）、目標の内容を具体化した第2層（ターゲット）、進捗を数値化して測る第3層（グローバル指標）

第1層はよく知られる17の目標であり、持続可能な開発の3つの側面である経済・社会・環境について、地球規模で目指すべき大きなビジョンが示されています。目標5では、「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女兒が自由と力を獲得できるようにする」と、やや抽象度が高い、崇高な目標が掲げられています。SDGsのロゴにある訳文（例 5 ジェンダー平等を実現しよう）はわかりやすいですが、単純化されている側面もありますので、目標の全文を読んでいただくことをお勧めします。

第2層のターゲットでは、目標の内容をより具体的に示したものとなります。ターゲットによって、目標年や数値が含まれる場合もあります。例えば、ターゲット

5・4は無報酬の育児・介護や家事労働になります。なお、ターゲットの中にはアルファベットがついているものがありますが、目標達成のための手段であることを意味しています。例えば、ターゲット5・cの「ジェンダー平等の促進と、すべての女性・少女のあらゆるレベルにおけるエンパワーメントのため、適正な政策や拘束力のある法律を導入し強化する」がこれにあたります。

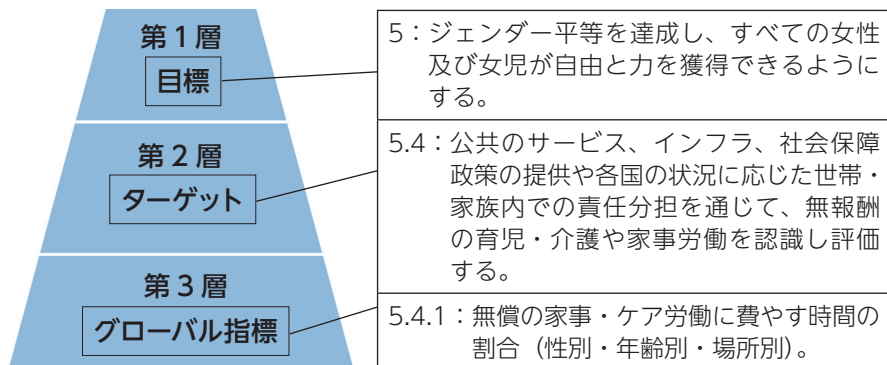
そして、第3層のグローバル指標では、SDGs達成に向けた取り組みの進捗を数字で示し、測るものとなります。例えば、5・4無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価するというターゲットの進捗を測るために、グローバル指標5・4・1無償の家事・ケア労働に費やす時間の割合について、性別・年齢別・場所別に数値化する、という形になります。

3. 日常生活からのジェンダー平等への取り組み

いかがでしょうか、家事・ケア（育児、介護）労働といえますと、私たちの日常生活においてとても身近なことですね。日本では家事労働における女性の負担が重

いとされており、新型コロナ禍でその状況が悪化しています。SDGsの三層構造で、それぞれの家庭で家事労働を見直すこともこのグローバル指標の改善につながり、ひいては目標5のジェンダー平等、そして日本や世界のSDGs達成に向けた身近な取り組みになるのです。

図表 SDGsの三層構造とジェンダー平等



出典：外務省 Japan SDGs Action Platform より筆者抜粋・編集
※訳文につき目標は筆者、ターゲットは「SDGsとターゲット新訳 ver.1.2」による